

文化小劇場で紡ぎ出す

第1回～第6回[全11回]

名古屋の歴史 2016

名古屋市域の原始・古代から現代に至る歴史を編さんした「新修名古屋市史」の編集・執筆に携わった歴史の専門家による講演会を開催します。
この機会に、名古屋の歴史にふれてみませんか？

講演時間 14:00～16:00(全会場共通)

第1回
2016年
12月6日(火)

**川伊藤家による
藤高新田(港区)の開発と
所有権をめぐるトラブルについて**

会場 緑文化小劇場 [446席] 052-879-6006
地下鉄桜通線「徳重」下車 2番出口すぐ

講師 種田 祐司 名古屋市博物館調査研究員

藤高新田は寛政8年(1796)、福田新田の森弥市が開発を始めたが資金が続かず、名古屋大船町の川伊藤家に売却された。ところが、弥市の後継者は新田の所有権を主張し争論になった。争論の経過をたどることで、教科書にはない江戸時代後期の社会を描く。

第2回
2016年
12月13日(火)

志段味古墳群と尾張氏

会場 守山文化小劇場 [400席] 052-796-1821
名鉄瀬戸線「小幡」下車すぐ(アクロス小幡3階)

講師 深谷 淳 名古屋市教育委員会文化財保護室主査[埋蔵文化財]

近年、継続的な発掘調査が進められている市内最大の古墳群である志段味古墳群。最新の調査成果を踏まえて、志段味古墳群の移り変わりを明らかにするとともに、尾張のクニの国造「尾張連」を輩出した尾張氏との関係を探ります。

第3回
2016年
12月20日(火)

庄内川下流域の農業と漁業

会場 中川文化小劇場 [446席] 052-369-1845
あおなみ線「荒子」下車 南へ徒歩1分

講師 津田 豊彦 元新修名古屋市史民俗編編集委員

この地域には、かつては島畑(しまばた)、高畦(たかうね)、重田(じゅうでん)堀潰れといった、独特の景観が見られ、特別な農業が営まれてきた。また、河口の下之一色では、さまざまな漁業が行われ、その販売のために一色電車まで走らせ、漁業組合は全国唯一、病院までも経営し、地域の福祉に大きく貢献してきた。

第4回
2017年
1月17日(火)

**昭和戦前期の
名古屋の国際都市化と
大岩勇夫市長**

会場 天白文化小劇場 [350席] 052-806-8060
地下鉄鶴舞線「原」下車 2番出口すぐ(原ターミナルビル4階)

講師 真野 素行 名古屋市市政資料館調査協力員

昭和戦前期の日本は国際連盟脱退など国際社会で孤立化を強めていたが、百万都市となった名古屋市では名市長と謳われた大岩勇夫のもとで国際博覧会が開かれ、外国貿易の振興や大都市にふさわしい施設の整備が進められた。戦前の名古屋の国際化の取り組みを紹介する。

第5回
2017年
1月24日(火)

**愛知の航空機と
自動車の工業発展史**

会場 千種文化小劇場 [251席] 052-745-6235
地下鉄桜通線「吹上」下車 7番出口より北へ徒歩3分

講師 笠井 雅直 名古屋学院大学教授

愛知を代表する産業である航空機と自動車の発展の歴史的な条件と企業の発展史についてとりあげ、豊田佐吉の織機事業から零式艦上戦闘機に代表される愛知の航空機産業に至る機械工業の展開過程といわゆる中京工業地帯の全国的意味についてあざやかにしたい。

第6回
2017年
1月31日(火)

戦国那古野城以前の名古屋

会場 西文化小劇場 [346席] 052-523-0080
地下鉄鶴舞線「浄心」下車 4番出口より南へ徒歩3分

講師 岡村 弘子 名古屋市博物館学芸課学芸員

今川氏によって那古野城が築城される以前、名古屋台地はどのような様子であったのでしょうか。発掘調査の成果や文献資料から、「城でもつ」時代以前の、名古屋の「原風景」を探ります。

料金など

入場無料

要チケット

- ▶ 11月11日(金)から各会場窓口はじめ文化振興事業団各施設窓口でチケットを発券します。
- ▶ チケットがなくなり次第発券を終了します。
- ▶ 開場は各講演会開始の30分前です。
- ▶ 当日の空席状況につきましては、各会場へお電話にてお問い合わせください。
- ▶ ご来場の際は、公共交通機関をご利用ください。

スタンプラリー

講演会全11回のスタンプを集めていただいた方には、最終回の昭和戦前期文化小劇場(3月7日)にて、**名古屋市文化振興事業団主催公演のチケットを進呈**します。スタンプラリーの台紙は、第1回の緑文化小劇場(12月6日)にて配布します。